

なかま

No.94

THE 50th
ANNIVERSARY



since 1973
B.S.MACHIDA13

発行：ボーイスカウト町田 13 団広報 2023 年 12 月 年間総集号

『上進式に出席して』

育成会長 中村 孝志

先日、令和5年9月 13 団の上進式に出席致しました。
社会が大きく変化してきた影響で、子供達の環境も変わり、スカウトの数も減少してきております。その傾向は全国的に共通です。

しかし、進級を迎えるスカウト達は生き生きとして、とても頼もしい印象を受けました。それは、キャンプや登山、ハイキング、工作、共同募金活動、スキー訓練等々、年間を通じて様々な経験を積んで来た証です。野外活動を通じて、仲間達と自然とふれ合い、苦しい事、辛い事にも挑戦して来た実体験が彼らの自信に繋がっているのです。

色々な事がVRで体験でき、考えなくてもAIが答えてくれるこの時代に、苦しい事や面倒な事を避け、自分で考えなくてもやり過ごせるこの時代に、この時代だからこそ、ボーイスカウト活動は、子供達の将来にとって是非とも必要な事と改めて思いました。

『みんなで集まった50周年の夏』

団委員長 田地 司

あっという間にあの暑い夏が過ぎ、この号が発刊されるころにはクリスマス、餅つきと年末の行事が待っているはずです。今年は13団発団50周年記念式典を開催、また発団記念全団キャンプをハヶ岳で開催したことは皆さんの記憶に新しいところだと思います。50年間の出来事や実績を振り返る機会は多々あるかと思いますが、これからは毎年が生き残りかけた活動となります。町田地区で今活動を継続している団は、数えるほどになっています。

これはすべてスカウト数の減少によるものです。何をどうすれば人数が増えるのか？その問いの答えを自分たちで見つけなければなりません。一つの解に来年のBP祭を町田1団と合同開催する計画があります。ご承知の通り、1団は町田で一番先に発団し我々よりも10年先輩です。自団以外のスカウトと競い合い良い意味で対抗心を持って活動に参加することがスカウトにとって大事ではないでしょうか？その点において、合同プログラム実施でスカウトはもとより我々指導者もお互いに刺激し合えることができれば良いと考えています。

合同プログラムへの参加ということでは、東京連盟主催のBVS、CSラリーが開催され、RS100キロハイクも例年通り開催されます。その中で我々なりの解を見つけることを願ってやみません。



訃報

町田仁武、元育成会長、前団委員長におかれましては、病氣療養中のところ去る 9 月 7 日ご逝去されました。享年 79。1982 年にカブ隊副長としてスカウトの指導に携わり、以来ボーイ隊、シニア隊の各隊指導者を歴任され、1994 年から団委員長、2011 年から育成会長に就任、2016 年に退任されるまで長きに渡り 13 団の発展に尽くされました。ここに改めてご冥福をお祈りいたします。

『ローバー隊だより～大きなイベントを経て～』

ローバー隊隊長 木村 孔紀

発団 50 周年式典という大きなイベントを乗り越え、気づけば夏キャンプ 1 か月前。RS 隊の夏キャンプ準備はいささか他隊から遅れてのスタートとなりました。まずはキャンプ計画を立てるのに何度も会議、会議、会議。後輩スカウト達にも見せてあげたいところなのですが、RS 隊はこういった見えないところでの計画・準備が活動の大半を占めています。しかし最近では段々と役割分担がスムーズになって、効率的に計画を立てられるようになってきました。こういう所でそれぞれの得意不得意、趣味嗜好やこれまでの経験がハッキリと出てくるので、隊長をやっていて実はこの場面が一番面白かったりもします。

今回のキャンプ地である甲斐小泉は、今の RS は BS 時代に来たところのあるところ。その時は「スカウトだけでキャンプを成立させる」というテーマで、RS・VS 隊を中心にスカウトだけで活動計画を立て、実践していました。彼らにとっては「とうとう自分たちが…」という思いもあったでしょう。そういうこともあり、自分は今回の裏テーマとして「スカウトだけでキャンプを成立させる」を密かに掲げていました。もちろん、いきなり全部を丸投げするのではなく、その練習という意味合いが強かったです。

その裏テーマを RS は読み取ったのか、彼らが打ち出した目玉企画「RS ナイト」は夕食とナイトゲームで後輩スカウトをもてなすというものでした。これの面白いところは「中華」という一貫したテーマで 1 つのイベントとして仕上げているところです。料理はトンポーロウや麻婆豆腐をメインにした中華料理で、肝試しではキョンシーが出てきたりと、テーマ性を大事にした彼らの工夫が個人的には面白かった。その他にも通信塔作成の指導やキャンプファイヤーの運営など全体行事を取り仕切り、登山やセルフエグザミネーションなど独自のプログラムも織り交ぜた有意義な 7 日間となりました。

後日、夏キャンプの反省会した際、この裏テーマについて RS に話してみました。彼らの中では RS ナイトにしてもキャンプファイヤーにしても「もっとこうすればよかった」といった思いは出てきたようで、来年より発展したものをお届けできるよう準備して挑みたいと

思います。やはりボーイスカウト活動は計画・準備・実行・反省を繰り返してこそ成長できるものです。これからクリスマス会や餅つき大会、年明けはBP 祭があったりと団行事が目白押し。RS が活躍できる機会がたくさんあって喜ばしい限りです。

末筆にはなりませんが、皆様のご理解ご協力の下、今回の夏キャンプもつつがなく終えることができました。来年に向けて動き出したスカウトたちとともに、このボーイスカウト活動をより一層盛り上げていきたいと思っております。引き続きお力添えをいただけますと幸いです。

『ベンチャー隊便り - 隊長期間を振り返りつつ、思うこと - 』

元ベンチャー隊隊長 本田 裕輔

スカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。

2024 年度より隊長を永山副長にお願いし、私自身はベンチャー隊の副長として隊長を支えつつ、事務局に加え、新たに野行に従事することになりました。決して仕事が忙しいとか隊長が嫌になったとかではなく、兼ねてから隊長経験者を増やしたいということと、他隊への支援を隊長という立場ではなく、もっとフレキシブルに行いたかったことが大きな理由でした。

この「なかま」の原稿を書き始めた時点では今年の夏キャンプについての成果を書くつもりでしたが、寄稿の期限が伸びましたので、8 年間の隊長期間を振り返りつつ、思うことを書き残したいと思います。

初年度はカブ隊長からいきなりベンチャー隊長になったことと、一人息子もボーイ世代だったので、高校生がどこまで何ができるのか全く分かりませんでした。最初のキャンプに参加者がいないことが当日にわかり、ボーイ隊の支援に回ったことを今でも覚えています。

ただ、当時のスカウトはとても優秀で、これだったら団の運営も可能ではないかと思いました。ほっておいても全員隼なり、富士を目指すスカウトばかりでしたので、そのサポートをするのが、指導の中心となっていました。しかし、年代が 1 年空くと自ら計画を立てることが伝承されず、章を取るスカウトも途切れました。

その後、コロナ騒動で活動ができなくなりましたが、その間に二つの受験で実は活動期間が短いベンチャー隊の活動成果とは何だろうと考え始めました。ボーイスカウト活動の目的をスカウトに伝え、活動の内容と結びつける指導を実践しました。スカウトも理解してくれ、ベンチャー隊の活動としては充実したものになりました。

しかし、ベンチャー隊から上進したローバースカウトを見ていると、自分が思った成果をあげられていないように感じました。それはスカウトが悪いわけではなく、ベンチャー隊の時にローバーの活動を見据えた指導ができていなかったと感じ、目標を立てることにしました。やっとその成果も出つつありますので、試しにボーイ隊でもキャンプのナイトセッション

ンで時間をいただき、ボーイスカウト活動の目的と成果について話をしてみました。案外反応もよく彼らなりに理解してくれたと思います。

これからも各隊の支援に伺った際には、活動内容とその目的を年代にあった内容にして伝えていきたいと思います。

『2024 年度 VS 隊隊長就任にあたり』

新ベンチャー隊隊長 永山 雅人

2024 年度の VS 隊隊長の永山です。

スカウトと共に活動をしていくにあたり、何かテーマを持った方がいいと思い、3 つほど考えました。

- スカウトの希望を叶える
- 得をする
- 還元する

VS 隊からは、スカウト自身がやりたい事を考え、実行するための計画を立て、それを発表し、そして実行し、その結果をまとめるようになります。スカウトがやりたいと希望したことが実現できるよう、副長とともにサポートしていきたいと思います。

ただ、経験の少なさから狭い範囲しか見えていない場合は、より広い選択肢を提示してあげるようにしてあげたいと考えています。例えるなら、世の中には平均的な料理を提供するファミレスだけではなく、特徴のある料理屋があることを示すことで選択の幅を広げ、満足度が高くなる結果に繋げていければと思います。

活動をとおして得られるものは、スカウト活動の範囲にとどまるものではなく、近いところで言えば定期試験や入試、面接、人前での発表の時にも役立つものになると思います。

プロスカウトというのは存在しませんが、自分のいる世界でプロフェッショナルになるのに役立つ知恵や経験についてスカウト活動をとおして体得できるようにしたいと思います。何かの際に、“知っていてちょっと得した” と思えるような瞬間を得られるようになればと思います。

様々な分野で活躍しているプロフェッショナルが隊長・副長としていますので、それらの人の話を聞き、気付きを得る機会を作りたいと思います。

BS 隊までに得た知識・経験を使って自ら活動していくのが VS 隊になります。これまでに得たことを人に教えることで自分の能力がさらに上がります。得るだけでなく、得たものを還元することが自己成長につながる事を実感してもらいたい。ボーイスカウトには様々な“章” がありますが、“章” を取れたのは本人の努力はもちろん必要ですが、決して一人で取れるものではなく、先輩や後輩がいるからこそ取れるものだと思います。先輩・後輩への感謝の行動の一つが還元です。スカウトには、この事を理解してもらえようようにしたいと思

います。

私のボーイスカウト活動の源の一つは、息子がお世話になったことに対する感謝の意の還元です。

私自身は、ボーイスカウト経験はありませんし、アドミ色の濃いことは苦手な方なのでハンドブックどおりにはいかないかもしれませんが、ボーイスカウトの目標である「より良き社会人」に最終的には近づけるよう活動していく所存です。

一年間よろしく申し上げます。

『BS 隊だより』

ボーイ隊隊長 宮本 隆太郎

中3スカウト6名がBS隊を巣立ち、スカウト9名での新年度が始まりました。残念ながら2年続けて上進スカウトがおらず、スカウトたちもさぞがっかりしたことと思います。ボーイスカウトの技能は上級生が下級生に教えるというのが基本で、後輩に教えることで自分の技能も定着していきます。でも無い物ねだりをして仕方がないので、今年1年、このメンバーで切磋琢磨し合って頑張ろう、と年初に皆と話しました。ところが縁あって、スカウトの弟くん(小5)が11月から新たに入隊してくれることになり、その話を伝えたときのスカウトたちの嬉しそうな笑顔がとても印象的でした。

ボーイスカウト活動というのは、将来“良き社会人”になれるよう、キャンプやハイキングなどの屋外活動を通じて「自主性・自発性」を高めていくことが目的です。年代が上がるにつれ「自主性・自発性」を求める割合が高くなり、BS隊では自分たちでものごとを決め、仲間と協力してチャレンジし、自ら課題を解決できる能力が必要になります。そのためにも君たちスカウトを大人として扱いたい、なんて話も年初にしました。

そして安全確保は大前提ですが、スカウト活動は“失敗する”ことが許される環境です。どんどん失敗して、それを次回どのように生かすか考える、というのがスカウトの成長にとって最も大事なこと、と考えていました。その思いは今も変わらないのですが、伸び伸びと高いパフォーマンスを発揮したり、人生の満足度を上げていくために「自己肯定感」を高く持つことも重要なことだな、と最近思うようになりました。そのためには失敗体験とその後のフォローだけでなく、成功体験や達成感を積み重ねるサポートもできればと考えたりしています。(なかなかバランスが難しいところですが。。)

さて、今年度のBS隊年間テーマは『ファースト・ペンギンたれ!』です。集団で行動するペンギンの群れのなかから、天敵がいるかもしれない海へ魚を求めて最初に飛び込む1羽のペンギンのように、自ら率先して行動し、果敢にチャレンジする「ファースト・ペンギン」になってくれることを期待しています。

余談ですが、「ファースト・ペンギン」という言葉を私自身気に入っていて、昨年からよくスカウトに話していたところ、5月の頃にあるスカウトが、“隊長、学校で今年の学年目標を決めるのに、僕が『ファースト・ペンギン』というのを提案したらそれに決まったんですよ！”なんて、うれしい話も聞かせてもらいました。かわいい“ファースト・ペンギン”たちに負けないよう、1年間新たなチャレンジをしていきたいと思う今日この頃です。

『夏キャンプを終えて』

カブ隊隊長 甲田 秀行

2023年の夏キャンプ、CSは今までにない宿舎ではない小屋でのキャンプ参加になりました。場所は、三分一湧水の横、町田1団のキャンプ場です。

下見の際、結構なリーダーは一度経験があるようでしたが、私は初めてだったので、どんな場所かな？とワクワクしていました！

おお、土地も山もありおまけに畑まで最高のキャンプ場だと感じていました。ただ、CSスカウトは小屋での宿泊経験がなく、予備のテントを建てた方がよいか？とか全員入れるか？など少しの心配もありました。

夏キャンプ初日、町田よりの電車での移動。特急を利用した長距離移動となりました。スカウト達も大はしゃぎで少し回りの方にご迷惑をかけたかもしれません。

2日目、炎天下の中16kmにおよび長距離ハイク。信玄棒道から小淵沢に移動しました。下見の際に地元の観光案内所で教えていただいた湧き水を探すぞ！っていうコースを満喫しました。ただ、炎天下の中16kmは長かったようで、私も含めてスカウト達も若干ばてていました。

3日目、通信棟とブルーベリー狩り！ちょっとひ弱そうな通信塔でしたが、見た目より強固でスカウト達は怖いものなしでてっぺんまで。私は少し怖かったので上りませんでした。

4日目、キャンプファイア、一生懸命に練習したスタンプをみんなに披露！とても盛り上がりました。

各隊の指導者および先輩スカウトに援助をされながら楽しい夏キャンプになったと思います。来年もよろしくお願ひ致します。

『BVS 隊長交代』

前ビーバー隊隊長 原 敏文

ボーイスカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。私が2020年度から隊

長をさせていただきましたが、この9月からBVS副長の榎谷リーダーが隊長に就任されました。おめでとうございます。

私は副長として活動させていただきます。母の介護の為、神奈川県大磯町をベースとしていますので皆様にご迷惑をおかけすることもあると思いますが、よろしくお願いいたします。

活動を振り返ってみると、新型コロナと共存しての3年間であったと思います、室内外の活動の制限があり思うように活動が出来なかったことを思い出します。スカウトの成長が一番感じるのは、今年の夏キャンプで、BVS隊はファミリーキャンプテント2泊3日、先輩スカウトに支援していただき完成したテント、高くて揺れる通信塔、ブルベリー狩り、ナイト肝試し、流しそうめん、三分一湧水近辺での虫取りや多くの自然を経験し、たくましく大きく成長するスカウトの姿を見ることが出来ました。

皆様に感謝します。

『ビーバー隊隊長就任のご挨拶』

新ビーバー隊隊長 榎谷 禎子

2024年度よりビーバー隊の隊長を務めさせていただくことになりました。

やはり隊長という名は重く、正直なところ躊躇しておりました。しかし団委員長をはじめ、各隊隊長や指導者の方々にサポートするとの暖かい、力強いお言葉をいただき、お引き受けすることといたしました。

新しい年度が始まり2か月程度経過いたしました。お言葉通り皆様にご支援をいただき、楽しく安全に活動ができております。ありがたいことに指導者だけではなくベンチャースカウトからも支援をしたいとの申し出もいただきました。スカウトたちにとって先輩スカウトというのは特別な存在で、指導者の言うことより素直に聞き入れてくれることも多々あります。皆様のご協力を得ながら今後も楽しい活動を行っていきたいと思っております。

現時点でのスカウト数は3名で、楽しく活動はしています。しかし、やはりもっと仲間を増やし、よりにぎやかに、より活発に活動を展開していきたいと思っています。お友達にお声がけいただき、近くのお店にチラシを貼っていただき、などの地道な活動を続けていくしかないのかなと思っており、またそれは少しでも多くの人数で進めていく方がより効果的だと思います。保護者の方一人一人のご協力が必要となります。ここにチラシを貼れそうよ、などの情報もお待ちしています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

至らない点も多々ある隊長ではありますが、スカウトファーストで活動をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

夏キャンプ感想文

「51年目、新たな時代が始まる」

ローバー隊 井上 雄太

昨年はめでたいことに町田 13 団が発団 50 周年を迎え、今年は 51 年目になります。

私は幼稚園年長時に入団してから今年でスカウト 16 年目であり、13 団の歴史全体のほんの一部しか経験しておりません。しかし改めて歴史の重み、また自分の人生がボーイスカウトによって形作られていたことを感じているところです。

最近では私自身、これまでのスカウト活動を振り返ることが多いのですが、その中で 13 団のいくつかの変化に気付きました。

一点目に、主体的に活動を楽しんでいるスカウトが増えている点です。

最近の他隊の様子を見ると、自分たちで何をやろうか考えながら、本当に楽しそうに活動をしているのが分かります。彼らほど目を輝かせながら活動をするスカウトは、私たちが小さかったときにはなかなか見られなかったのではないのでしょうか（笑）。先輩としては本当にうれしい限りです。

二点目に、スカウトの人数が減少してしまっている点です。

団全体のスカウトの減少はもちろんのこと、私の同期も 1 番多い時で 9 人いたのですが、今は昔から 13 団にいた同期は自分 1 人になってしまいました。

また最近大学で、ボーイスカウトでのエピソードを友人に話す機会があったのですが、その時「ボーイスカウトって何？ 自分知らない。」と言われてしまい、まだまだ知名度を上げていく必要があることも知りました。

一方で少ない人数の中でも、工夫して活動をしている後輩たちや、他隊から編入してくてくれた新たな同期、米澤君の存在は非常に喜ばしいです。

昨年の 50 周年を節目とし、この 51 周年を新たな時代の 1 年目としてみんなで 13 団を作り上げて行ければと思います。引き続きよろしく願いいたします。

『班長としての夏キャンプ』

フクロウ班 高田 琉唯

先日、班長として初めての夏キャンプに行きました。他の習い事や塾などがあったため、

行くかどうか迷いましたが、きっと良い経験になると思い、行く事を決心しました。今回は主に、このキャンプの反省点、良かった点、改善点などを述べていきます。

まず全体としての感想ですが、全員大きなケガがなく、とても楽しかったと感じました。しかし、細かいミスや改善点などがたくさんありました。まず一つ目は、いちいちダラダラしていたり、気を抜いていたりにしていた事です。もっと準備や片づけができたと思うし、日によってですが言われないと動かなかったことが多々ありました。最終日あたりは前半よりてきぱき動いていたので、今後のキャンプからも、このようにリーダーに言われなくても動いたり、フリーだったらリーダーや先輩などにやることがないか聞いたりして、効率よく行動したいです。二つ目は、ローバーやベンチャーの先輩方に任せすぎた事です。特にパイオニアリングですが、本当ならボーイ中心でやるところが、ローバー・ベンチャー中心でやっていたので、次のキャンプでは自分達から積極的に行動していきたいです。逆に良かったところは登山でのケガがなく、スムーズに下山などができていたり、その場の状況に応じて臨機応変に動いていたので、そこは良かったと思いました。他にも、よくコミュニケーションをとっていたり、テントなどの撤営をスムーズにやっていたりに良かったなと思いました。

今回のキャンプではフクロウ班は、上級班長がいないなか協力してやっていったり、楽しみながら活動しましたが、その分たくさんの課題が見つかりました。それらの課題を来年の夏キャンプまでにクリアして、それを活かして今後キャンプしたいです。

『夏キャンプを通して』

フクロウ班 香西 柊哉

僕は夏キャンプを通してたくさんのことを学びました。

一日目は夜ごはん豚キムチごはんサラダを作りました。食べている最中に片付けの役割分担をしましたが、実際にその通りに動けませんでした。改善するためには、お互いに声をかけ合い、スムーズに片付けることがポイントだと思いました。

二日目はハイキングをしました。荷物がかかなり重かったので、さらに厳選してハイキングに臨みたいです。寝る時間が早かったので寝ている間はゆっくりできました。良かったところは行動食を計画的に使えて、空腹にならずにハイキングできたところです。

三日目は山を下りました。撤営のときは強風で雨が降っていて、しかも霧がかかっていたので大変でした。下山のときはけがをしやすかったので気を付けました。その後温泉に入ってさっぱりしました。三日目を振り返って、やらなくてはいけないことをやる前に遊んでしまったため、メリハリがなかったと思います。次の日からは、やるべきことをしっかりやってから、やりたいことをやろうと思いました。

四日目は通信塔を作りました。登ってみると、想像より高くて怖かったです。八の字結び

と、荒縄は水につけると伸びることを知りました。良かったところは誰もけがをせず、安全な通信塔ができたことです。反省点は自分から積極的にロープ結びをしなかったことです。失敗を恐れずに挑戦していきたいです。自分の技術が足りないと、後輩へ指導することができなくなるので頑張ります。

五日目はバーベキューと流しそうめんとスイカ割りをしました。天気も良くて料理がおいしかったです。

六日目は撤営をしました。時間通りに動けました。最後にブドウ狩りをして、夏キャンプを終えました。

夏キャンプ全体の感想は大変なことがたくさんあったけど、楽しいキャンプでした。後半はもちろん楽しかったし、前半も一緒にご飯を食べながら話している時間は楽しかったです。この夏キャンプで培った技術を今後を活かしたいです。

『今までにない経験をした夏キャンプ』

フクロウ班 荒 旬之輔

今回の夏キャンプでは、反省点もたくさんありますが、良い経験や新しく覚えたこともあります。この夏キャンプで一番うれしかったことは、撤営が速くできたことです。なぜかという、撤営の時は班員たった三人だけでドームテントをたたみ、一回で袋の中に入れることが成功し、食テも素早く片付け、バイソン班よりも早かったからです。逆に、一番大変だったことは、一泊二日のすごく重い荷物で登山をしたことです。なぜかという、去年より距離が長く、去年の足の痛さは『すごく痛い』レベルだったのに、今年はそれを乗り越えて『感覚がない』レベルになっていたからです。

最初に、今回のキャンプで良い経験だったことと、新しく覚えたことが合わせて四つあります。

一つ目は、筋かいしばりとハの字しばりを覚えたことです。筋かいしばりは、立ちかまどを作るときに、スカウトハンドブックを見ながら覚えました。ハの字しばりは、本番ではやっていませんでしたが、スカウトロープで練習しました。ぼくはロープワークが好きなので家でも練習しています。今は、一級スカウトのロープワークをがんばって覚えています。

二つ目は、一泊二日の重い荷物を持って登山したことです。なぜかという、金峰山のように岩が多くて登るのが難しく、足が痛かったので精神的にも肉体的にもきたえられたからです。岩がとても多かったので、足にとっても負担がかかりました。

三つ目は、バルドンさんとたくさん英語で会話することができたことです。大事なことの通訳もやり、責任がありましたが、頑張ってたくさん話せたのは貴重でとても良い経験だったと思います。

四つ目は、荒縄は乾くと縮んで、ほどきにくなることです。初めは、なんで荒縄をぬら

しているのだらうと思いましたが、先ばいやリーダーに教えてもらって納得しました。実際、ぼくが水につけてある縄をよく見たところ、すごくやわらかくてほどけそうでした。

今回のキャンプの反省点は四つあります。

一つ目は、ダラダラせずにメリハリをつけることです。なぜかという、一泊二日の青年小屋でのキャンプの後からずっと片付けが遅くなってしまったり、点検などの時間を延長することがあったからです。

二つ目は、自分から先ばいやリーダーに聞いて、仕事を見つけることです。なぜかという、パイオニアリングなどの時に、ずっと立っていることがあったので、これからはもっと積極的に行動したいです。

三つ目は、班の中で役割分担をすることです。なぜかという、役割分担をしないと、やるべきことがきばきできず全体がダラダラしてしまうからです。

四つ目は、設営や撤収の時に軍手をすることです。なぜかという、ぼくは軍手をしていなかったためトゲが刺さってしまい、軍手は必要だと改めて思ったからです。

今回のキャンプでの反省点は改善点を見つけて、次回のキャンプに活かします。そして、新しく覚えた技能は家で練習して、できるようにしたいです。それから、団委員長をはじめ、隊長、リーダーや、やきそばを売ったり作ったりしてくれたみなさんのおかげで夏キャンプができたと思うので、感謝したいです。

『夏キャンプ作文』

フクロウ班 中島 シャルロ

私が夏のキャンプを通して感じた、しんどかったことと楽しかったことを話します。

まず、大変だったことは人生で初めて山の上でキャンプをしたことです。私はボーイスカウトで何度かキャンプを経験しましたが、山の上ではいつもと比べ物にならないほど大変でした。でも、とても良い経験をしました。例えば、いつものキャンプではない寒さや、風の強さ、またその影響でテントを立てにくかったり、雨が降っていたため、地面が濡れてもあまり影響の受けにくい場所にテントを立てたりするなどの工夫が必要だということを学ぶ経験をしました。また山を登るときにも体力があまりなかったため、他のスカウトにおいていかれるようなこともありました。

しかし楽しかったこともあります。それはブルーベリー狩りや三脚通信塔の制作、地域の人との交流も兼ねてのバーベキューです。例えば三脚通信塔では自分が知らなかった結びをやり、それを習得できたり、完成したときに塔に登るのがとても印象に残りました。



私はこのような様々なことを今年の夏のキャンプを通して感じる事ができました。しかし、まだ入ったばかりなのでどんどん技術を習得し、自分の技能にして来年の夏キャンプでは自分から積極的に参加して活躍したいと思いました。

『夏キャンプ作文』

バイソン班 佐々木 海利

夏キャンプに参加して、様々な感じた事や得た発見、学びがありました。

まずは厳しい環境の中で仲間との結束力が強化される事を実感しました。雨のなかでの登山や、パイオニアリングはもちろん、登山以外でも普段の食テンの使い方や何事においても相手とゆずりあう必要のある環境で、困難を乗り越える経験は、チームワークが非常に重要になってくる事を再確認させていただきました。

また自分の限界を超えてチャレンジする機会もありました。楽しく厳しいキャンプの中で今まで見い出せなかった自分の力を発見し、不可能だと思っていた事も努力と忍耐によって達成できる事を知りました。

さらに、自然環境との接点も得られました。長いキャンプとなると、現代の技術に頼りすぎず自然とどう関わるかがとても大切になります。自然の美しさと厳しさを、身を持って体感したことで自然を守る重要性についての理解も深まりました。

今回、自分は米を忘れてたり、登山で遅れをとってしまったりと、色々失敗をしてしまいましたが、その反面、ローバーやベンチャーの先輩方やリーダー、隊長からたくさんの事を教わりました。ここで学んだ事と自然への感謝を忘れずに、これからの活動に励みたいです。

『夏キャンプについて』

バイソン班 佐々木 永輝

✓良かったところ

今回の夏キャンプで良かったところは、自分自身の技能向上に積極的に励んだところです。初めての夏キャンプだったので、次回から困らないように分からないことはしっかり先輩に聞き、立ちかまどの作り方、角しばり、安全な下山の仕方などを学びました。他に、先輩とのコミュニケーションも大切にし、夏キャンプに参加しました。

✓改善点

改善点は、最後まで集中力が続かなかったことです。登山では下山の後半、パイオニアリングの最後など、特に疲れ果てているときは指示が一回で通らなかったり、作業効率が悪くなってしまいました。なので次回からは、休けいを増やしたり、休むときはしっかり休む、など工夫をします。

『夏キャンプ感想文』

バイソン班 廣石 權

今回の夏キャンプは、比較的自分がやらかさなかつたのでご飯は良かったです。が、そこで終わると1ページもないので、もっと詳しく書きます。一日目は、まあキャンプ地に行くだけでした。問題は二日目からで、重いキャンプザックを背負って標高2400mくらいのキャンプ場へ向かったことで、みんなの足がボロボロになり、風が強すぎてテントのペグがよくすっぽ抜けていました。そしてまたキャンプ場から山に登りましたが、キャンプ場まで登った時と比べると大分マシでした。山の上は寒くて風が強かったので、みんなよく眠れていなさげでした。三日目はまあ、山の上のキャンプサイトから帰ったくらいでした。四日目はパイオニアリングでみんなめっちゃ日焼けしていました。あと、みんな通信塔に登っていました。五日目はバーベキューや流しそうめん。大營火をして、六日目で帰って終わりです。とても楽しいキャンプでした。



『2023年夏キャンプ』

カブ班 藤木 亮成

二〇二三年夏キャンプ
藤木 亮成
ぼくは、夏休みにボーイスカウトのみなでハル岳へ四泊五日のキャンプに行きました。ぼくが夏キャンプで一番楽しかったのは、スタンプです。なご谷ら、夏キャンプの中で一番重要なイベントだからです。そして、みんな練習と発表するのが楽しいからです。スタンプの名前は、二〇二三年夏キャンプコントば人レです。一日目から三日目まで何もスタンプの事は、考えませんでした。ようやくスタンプ当日の四日目で決めました。どういふ内容なのかという一日目から四日目まで、考えた大きな出来事を三つえらびました。一つ目は、通信とうに登った事、二つ目は、肝だめの事、三つ目は、水遊びの事です。内容を決めるのが一番大変でした。スタンプが終るとみんなかから大かんと声でした。そして、ぼくはボーイスカウトがもっと楽しいと感じました。

『夏キャンプ 登山の下見&本番にて』

ボーイ隊副長 荒 勇人

ついに世の中は完全に「アフターコロナ」となった。現実はいまだコロナを起因とする死亡例は発生し続けている状況で医療業界の友人の話では今夏はむしろ「これまでで最高の勢い」だそうだ。(御多分に洩れず、わたしの父がコロナで他界したのも今夏だ。)

なのにマスコミによる報道は示し合わせたかのようにいっさい無くなり、世の中「アフターコロナ」の雰囲気醸成された。不思議&理不尽なものである。このように世の雰囲気・方向性を操作することができるのであれば、最初から子供たちの短い青春時代の数年を奪わないでほしかったと思う次第である。

いずれにしても、何の制限もなく活動できるようになったのは喜ばしいことである。そんな中で開催される夏キャンプ。今回は実施場所も違うということで、多くの方々が事前の準備に尽力してくださっていたようである。保護者として頭が下がる思いだ。

かくいうわたしも今回は副長として宮本 BS 隊長と共に、下見(ロケハン)に参加させてもらった。下見をする場所は、何と言っても夏キャンプのメインの行事のひとつである登山のコース・テント場の下見だ。

くわしくご存知のない方にちょっとだけ説明すると、夏キャンプは、毎年一定の流れ・ストーリーがある。まず最初の数日(前半)は冒険にチャレンジをする。冒険なので当然ちょっと苦しい時もあるわけである。そしてその目標を助け合いながら達成し、団結を深め、後半はそれを活かし、分かち合い、喜び合うことができるようにプログラムされている。

というわけで、いざ「苦しい前半」の下見である。子どもたち(スカウトたち)の安全を考えると下見も重要な行事だ。今回は八ヶ岳の南方に位置する編笠山の麓にある山小屋「青年小屋」というところが初日の目的地だ。その山小屋の横でテントを張り、当日・翌日にかけて、編笠山と西岳をそれぞれ登頂し、翌日に下山するというコースである。

初日の目的地「青年小屋」までは地図で見ると、ざっと3時間半の行程である。本田 VS 隊長曰く「道は歩きやすく、たいしたことはない」とのこと。これを聞いて一安心。前途は洋々である。さっそく宮本隊長と共にいざ出発!

ところが、スタートしてみると、なかなか大変であった。何と言っても荷物が重い。テント泊をするための装備=つまりフル装備を背負って歩くのはなかなかきつい。1~2時間ならいざ知らず、これが3時間半ともなると、いったい果たして自分は目的地まで辿り着けるのであろうかと不安になった。

本田隊長がおっしゃっていた「たいしたことはない」の言葉を頭で繰り返しながら、以前にスカウトの誰かが「本田隊長のあと30分はあと1時間だと思わないとダメだぞ」と後輩に対してなんとも微妙な励まし方をしていたスカウトの顔が浮かんだ。

スカウトたちを導くべき、健康な大人で副長たるわたしが下見の段階で、しかもスタートして、わずか30分もしないうちに、こんなことを思ってしまう……。なんとも情けないものである。とは言え、こんな気持ちを傍(かたわら)の宮本隊長に言うわけにもいかない……。ここはひたすら頑張るしかないわけである。これはいかんと何とか気持ちを奮い立たせ、ひたすら黙々と歩くことに集中

した。(あとでお聞きしたのが、この時、宮本隊長もなかなか見つかったとのこと・・・)

結局、地図には3時間半と書いてあった行程を、4時間以上をかけて、何とか目的地に到着することができた。人間不思議なものである。到着すると今までの苦行を忘れ、達成感に満ち溢れ、果ては「まあ、これしきの事は本田隊長の言っていた通り、たいしたことはなかったな」とまで思うわけである。何とも自分勝手な大人である。とは言え、天気は良好。空いていたせいで気持ちよく過ごすことができた。これはスカウト達にもぜひ、このすばらしい景色を見せたいと心から思い、無事、下見を終えることができた。

迎えた本番。

夏キャンプの2日目。いよいよ登山にチャレンジする日が来た。

下見をした経験を踏まえ、スカウト達には、事前の夏キャンプ説明会において、口酸っぱく「荷物は少しでも軽くするため、二日間の登山に必要なだけの装備を」「前日の荷物の整理が重要」と言っておいた。それが功を奏したのかどうかは分からないが、本番当日、登山をスタートしたスカウトたちは着実に歩を進めていく。たださすがにフル装備である。いつものようにスイスイと登っていけるわけではない。それでもペースとしては良好で、結局、地図に記載の通りの3時間半から4時間弱で目的地の「青年小屋」に到着した。

テント場に到着後、休憩もそこそこに、まずは自分たちの寝床となるテントの設営だ。幸い去年のテント場と打って変わって、とても広く、かつ適度に平坦があった。また広いせいで人の多さも半減され、お互いに余裕を持ちながらも、13団として一定の範囲を確保できた。ここまでくれば一安心である。スカウトたちにも明らかに安堵の表情と、余裕が見られた。引率の自分にとっても一息つける瞬間であった。

昼食後、間髪を入れずに、目指すふたつの山のうちの一つ目「西岳」に向かった。麓から山小屋までをフル装備で歩いた時と違い、荷物のお大半は設営したテントの中に置き、荷物を軽くして登れるため、スカウトたちの足取りも軽かった。また行程としても、そんなに高低差がなく、往復2時間で帰ってくるため、西岳については余裕を持って登山ができた。その後、テント場に帰着。日も傾きかけてきた頃合い(18時前)に早めの夕飯とした。

ところがである。突如として天候が悪化し、空には霧がかかり、やがて霧吹きのスプレーをかけられたような霧雨となった。たいしたことないと思いながらも、少しずつ服は濡れていく。はたしてスカウトたちは、ちゃんとウェアに防水スプレーをしてきてあるのだろうか・・・と心配になりつつ、早々に解散とし、早めにそれぞれ各々のテントに入った。

テント場は当たり前だが日が暮れると真っ暗だ。よってまだ寝るにはまだ早いからと言って、歩き回ることはそうはできない。一寸先は闇とはまさにこのことで、大人の私ですら、多少不安になるものだ。いわゆる下界におけるキャンプ場とは大違いだ。ましてや天候は霧雨である。トイレに行くのもちょっと面倒になるくらいである。狭いテントの中で、手足がつりそうになりながら、レインウェアを着用し、ヘッドランプをつけ、靴を履いてテントの外に出ることは大変だ。よっておのずと各自テントの中に籠り、ごそごそと荷物の整理をするくらいしかやることはないのだ。

やがて数時間がたったであろうか、夜の 8、9 時くらいかと思う。いよいよ風が強くなってきた。雨自体はひどくはないが風の強さは風速 10m くらいになってきた。わたしはセーリング（帆走）をやっているため風には敏感だ。風速についてはおおよそ正確に把握できる。10m というとなかなかの風ではあるが、まだ危険を感じるほどではない。なんとかこのまま収まってくれないかと思いながら、一旦、トイレに行きがてら見回りをしたものだ。この時においてはまだその余裕があった。

しかし、夜も更けるにつれ、風は強くなり瞬間風速で明らかに 20m を超える瞬間も出てきた。また雨も霧吹き程度だったのが、霧吹きのスプレー10台が自分に吹きかけられているような激しい霧雨となった。音も「ゴオッー」という激しい音が断続的に続き、体感温度もとても寒くなった。まさに暴風雨といってもいい様相を呈してきた。

この状況になると、おいそれと外に出て見回りにいくことすら困難である。スカウトたちもさぞかし不安だったかと思う。すぐ隣に仲間のテントがあっても、ものすごい風の音で会話すらできないからだ。ひとたびテント入り口のジッパーを開けようものなら、大量の水が流れてきてしまうし、ひたすらテント内で無理やり寝る（ふり）をするしかない状況だ。

わたしもしばらくは息をひそめ様子を見ていたものの、いよいよ不安になってきた。はたしてスカウトたちは、きちんとテントの設営ができていのでしょうか、今ごろすでに誰かテントごと風に飛ばされているのではないかと心配になった。そこで意を決してテント外に出てみたところ、案の定、真っ暗な中、雨風に打たれながら必死に風にあおられ暴れるテントと格闘しているスカウトH君を発見。こりゃ大変だと焦った。しかし、たいしたものだ。当該スカウト本人はいたって冷静。聞けば、念のための補強だとのこと。仲間やリーダーに助けを求めずに、黙々と自分で1日だけのマイホームの修繕作業をしていた。この辺は普段の活動の賜物・成果なのか分からないが、少なくとも何も経験していなければ、大人でも泣いてしまうくらいの状況だった。

あとから知ったが、もう一人。なんとこの標高 2,500m での寒さの最中、寝袋なしでテントの中でひたすら耐え忍んでいるスカウトもいたとのこと。驚いて当該スカウト本人（K君）に聞いたところ、なんとか持っているものを最大限活用し、乗り切ったと淡々とした表情で言う。なんともたくましいものだが、こちらとしては冷や汗ものである。万が一、低体温症にでもなっていたらと思うと本当に恐ろしい。恐ろしすぎて、この話を聞いたあと、夢でうなされたくらいである。

もし低体温症による悲劇が起きていたら、間違いなく、わたしは団の皆さんとともに記者会見会場にてマスコミからの執拗な尋問に遭い、ネットでは「荷物を軽くしろ」と言ったわたしの発言が切り取られ、血祭りにあげられていたことだろう。夢でうなされた内容は記憶にないがおそらくこの類いに違いない。

さすがにスカウト本人（K君）もこれに懲りて、次回 2,500m 級の山に登るときは、寝袋は必須で持ってくるであろうと期待・・・、いや「頼むから必ず持ってきてくれ！」と願うばかりである。

そうこうしているうちに、長くつらい夜が明けた。結局、天候は回復せず、一番景色が素晴らしい編笠山の登頂は諦め、下山の途についた。わたしは下見の時、あんなに素晴らしかった景色をスカウトたちに見せてあげることができず、少なからず落ち込んでいた。これだけ苦労するのに何も対価を得ることができずに下山する。今のご時世風に言うと「コスパ」としては最悪である。自然とは理不尽なもの

だ。

しかし、スカウトたちはさすがである。意外にも明るい。やはり暴風雨の中、不安な夜を一晩過ごして、再び仲間の顔を見ることができたからであろうか、ある種「生き残ることができた連帯感」が生まれたのかもしれない。そして、何より自分たちではどうすることもできない「自然の理不尽さ」を経験することにより、コロナ禍に振り回された「世の中・社会の理不尽さ」にも耐えて乗り越えていく強さを、今回の荒天の中での活動で、少し身につけることができたのかもしれないとも思った。考えてみたら、これもボーイスカウト活動の趣旨の一環であろう。

無事、下山後、天気は回復。前半のわたしに代わり、後半担当の廣石リーダーの登場とともに、昨晚が嘘だったかのように急に晴れ間も見えてきた。その後、宮本隊長の粋な図らいで近くの温泉に行くことができた。これにはスカウトたちも大喜びであった。温泉では「風呂上がりにはコーヒー牛乳を飲む」という古き良き昭和な慣習も隊長から教えてもらっていた。この時のスカウトの皆の笑顔を見て、わたしはようやく悪天候の気分から解放された

最後に今回夏キャンプを企画・運営してくださった方、夏祭り等にて資金集めに奮闘してくださった方・畑の収穫体験やBBQ・流しソー麺の準備いただいた方・中華料理のブースを企画してくれたRS隊の皆さまなど、すべての皆さまに感謝と御礼を申し上げたい。感謝の気持ちを込めて、なるべく、わたしの活動部分の様子をつぶさに伝えようと思い、長文をしたためた次第である。ありがとうございました。

キャンプ感想文

『10月隊キャンプ』

バイソン班 鷺尾 咲人

僕は今回の隊キャンプで改めて「技能」というものを知りました。

一日目は設営をしていて、ウッドクラフトをしていました。しかし、バイソン班は1級班長がいないうえ、班員が3人しかいなかったもので、かなり手間がかかりました。ウッドクラフトではゴミ箱を作りました。でも角しばかりがゆるくてとてもグラグラしていました。そこで僕は、ある程度練習しないと技能は身につかないんだな、と実感しました。

また、夕食を作る時にも火がまったくつかず、すぐに食べる事ができませんでした。それにマッチを大量に使ってしまったので、とてももったいないと思いました。その後なんとか火はつきましたが、だいぶ時間が押してしまい、片付けがあまりできませんでした。

二日目からは早速、昨日の反省を活かせる時が来て、朝食をスムーズに作る事ができました。

昼のセッションでは隊長が「技能」のことについて語ってくれました。その言葉はとても

大切な事だと思いました。

その後、ロープでいろいろと練習していた時にベンチャー隊の本田隊長を見て、「えび結び」のことを思い出しました。しかしあまり覚えていなくて、ウッドクラフトの時と同じように思いました。

その後撤営をして、無事に帰ることができました。

今回のキャンプでは自分の技能がまだ足りていないことがよく実感でき、これからはそこを改善していこうと思いました。

※(隊長注)その 1 年ほど前のキャンプでベンチャー隊の本田隊長よりスカウトたちにロープワークを指導いただきました。その際、鷺尾くんの上手な「えび結び」を見て、感心した本田隊長が賞賛の意を込め “今日からキミのことを「鷺尾くん」でなく「えび尾くん」と呼ぼう！” と語った一幕がありました。

『23 年度初のキャンプ』

バイソン班 和田 達明

今年度初のキャンプは、多くの課題が見つかりました。

今回は技能キャンプということで、赤い羽根共同募金の時に決めた、「ウッドクラフト」を行いました。私たちのバイソン班は、分別ができるゴミ箱を作ることに決め、制作に取り掛かりました。この時点で早速「技術」面での課題が浮き彫りになりました。ウッドクラフトと言いつつ、竹とシュロ縄で制作をしたのですが、ロープワークの角縛りが甘く、すぐにぺたんとなってしまい、使うのに不便なものができてしまいました。角縛りは、仕上げの際の「割り」が重要になる結び方で、主に直角に交わった二本の棒を固定する時に使います。今回のウッドクラフトでは、この「割り」が甘かったために、このような失敗が起きました。ロープワークは、なかなか学ぶ機会も少なかったので、今回をいい失敗として、角縛りだけでなく、ひとえつぎやトートラインヒッチなど、キャンプで必要になる結びを学んでおきたいです。そのうえで、より良い制作ができれば、と思います。

さて、これから私が最も改善したいことは「技能」です。技能は、技術とは違い、あることができると同時に、そのことの危険性をはっきりと理解していることを指します。今回の技能キャンプでは、その技能について、いくつか課題点が見つかったので、その一つである「火起こし」について、ここに書き留めたいと思います。

ウッドクラフト終了後、日は傾いて暗くなり始め、食事の準備を進めました。夕食の用意で、まず無くてはならないものは「火」です。火がなくては、プラスチックのようなコメと、ある意味新鮮な野菜を食べる悪夢をみるだけです。火起こしの手順としては、新聞紙やトイレットペーパー、乾燥した葉などの燃えやすいものを火種とし、その上に小枝、中くらいの枝を入れ、マッチで火をつけます。(このとき、起こした火の先端を新聞紙に近づける。)そ

うしたらひたすら風を送り、小枝に引火して火が安定してからマキを入れます。これで完成です。今回、失敗した原因としてはマキ不足があてられますが、注目したいのは失敗よりも危険性の理解が無かったことです。火を起こした後始末、これがひどいものでした。

火はついたまま、マキは散乱し、灰は自然にまき散らされていました。これでは、再発火や環境汚染などのリスクがあり、技能があるとは言えません。

「技術」と「技能」は同じではありません。道具や現象を賢く使い、その危険性も理解できる。そんなスカウトになりたいと思います。

進級にあたって

『菊進級とボーイ隊の4年間について』

ベンチャー隊(中3) 齊藤 仁

私は、ボーイ隊にいた4年間を通して、精神面で飛躍的に成長できたと感じています。そして、そういった成長ができたのは、ボーイ隊が私にとってぴったりな恵まれた環境だったからだと思います。

私はボーイ隊に入ったとき、とても無気力でやる気が無く、「めんどくさい」というのが口癖の人間でした。しかし、どれだけ面倒くさくてもやるしかありませんでした。なぜなら、私には手本となる先輩というのがあまりいなかったからです。もちろん先輩は在籍していましたが、コロナで活動が潰れたり、そもそもあまり先輩が活動に参加していなかったりで、先輩から教わるべき技能を継承できませんでした。そんなことを言っても活動があるのでやるしかありませんでした。

最初は火が起こせませんでした。一回火を起こすのに、マッチを一箱使ったことだけがありました。次は、米が炊けませんでした。仕方ないので、芯が残ったり、べちゃべちゃしている米を我慢して食べました。

こんなことを何回も何回も繰り返しました。すると、徐々にできるようになりました。どのくらいで火から下ろせば米がうまく炊けるのか、どれだけ燃え移れば火は安定して風を送っても消えなくなるのか、感覚でわかるようになってきました。できなかったことができるようになると楽しくて、次はこれをやってみよう、あれをやってみようという気持ちになりました。

そうしているうちに、ボーイ隊で使うほぼ全ての技能を感覚でこなせるようになり、だんだん目新しいものがなくなってきてしまったので、ボーイ隊では本来やらないことにも力を入れてみました。例えばハンモックを買って活動の合間に設営してみたり、スキレットやダッチオーブンをを使い、手の込んだ料理を作ってみたりしました。この頃には「めんどくさい」

という口癖もなくなっていました。

やらざるを得ない環境でいろいろなことに挑戦し、失敗しながらも成功体験を積み重ねたことが、次の挑戦をするモチベーションになりました。そして、良い意味で自由度が高く放任主義なボーイ隊がそれを後押ししてくれ、成長につながったと思います。後輩スカウトにも、いろいろな活動に参加して、たくさん成功体験を積んでほしいと思います。それはきっと、この先ボーイスカウト活動以外においても、挑戦する勇気となり、モチベーションになってくれると思います。

私はこの4年間で菊スカウトに進級することが出来ましたが、それに慢心することなく、隼、富士と、上を目指していきたいです。また、菊スカウトの名に恥じないよう、これからも日々精進していきます。

『ボーイ隊の4年間について』

ベンチャー隊(中3) 榎谷 深月

僕はカブ隊の活動があまり好きではなかったのですが、ボーイ隊に上進するか迷っていました。でもボーイ隊では自分たちで物事を決めて活動することが多く、上進してキャンプを何回か経験するうちにそれが楽しいと感じ、上進して良かったと思うようになりました。

しかし、ボーイ隊に上がって半年くらいでコロナが流行してあまり活動ができなくなり、また部活や足のケガで満足に活動をする事ができない状態が続きました。

足のケガについては夏キャンプでも登山等ができず、悔しい思いをしました。あまり参加できない状態だったけれど、参加すると仲間がいつも通り接してくれました。それがとてもうれしかったです。

僕は今後もっと活動に参加していきたいと思っています。仲間がいて良かったと自分が感じたような関係性が作れるよう、今後も仲間を大切にしていきたいです。

『後輩の皆さんへ』

ベンチャー隊(中3) 佐々木 永遠

私のボーイ隊での四年間は、作文だけではとても言い表せない濃い四年間でした。私が初めてボーイ隊でキャンプをして家に帰ってきた時に感じたことは、「自分の置かれている環境が当たり前でないこと」です。私は小野路でキャンプをした時、水道とトイレがなく不便だと思いました。しかし、家に帰った後トイレがある、水道から水が出てくる、その便利さをキャンプの時と比べ、家の温かさを知りました。一回一回のキャンプで自分の環境がいかに恵まれているかを実感し、キャンプに行かせてくれている人に感謝を「伝え」ましょう。スカウトは感謝の心を「持つ」だけでなく「伝える」です。

私がボーイ隊に入隊した時、最初の一年間はコロナウイルスの影響によって活動がほとん

どできませんでした。また、活動ができるようになってからも、行動が制限されたり大きなイベントが中止になったりなど散々でした。先ほどの話のように、皆さんが活動できているのは当たり前のことではありません。限られた時間で、その貴重な活動を良いものにしていくかどうかは自分次第です。ボーイスカウトは時間厳守。いつもスカウトは腕時計を持ち歩き、5分前行動をします。時間はみんな平等で、自分でつくっていくものです。もし活動ができなくなっても後悔のない時間の使い方をしましょう。時間の使い方についてですが、特にボーイ隊のみんなは学校で部活が始まり、他に習い事があって、テストもあって…とボーイスカウト以外にも時間を使うべきことがたくさんあると思います。その時に優先順位がつけ難いと思いますが、それもうまく自分で調整するという力が大切になるでしょう。

私が四年間の活動と普段の生活で特に意識したことは「ちかいとおきて」です。皆さんはそれぞれの意味をきちんと理解していますか？「ちかいとおきて」はボーイスカウト活動の基盤です。今年のボーイ隊の年間テーマである「ファーストペンギンたれ!」。集団で行動するペンギンの群れの中から、天敵がいるかもしれない海へ、魚を求めて最初に飛び込む果敢なペンギンを指します。つまり「スカウトは勇敢である」ですね。宮本隊長から教えていただいた言葉で、私の今足りないものが勇敢さであり、私の目指すものの一つがそれであると感じ、好きな言葉の一つとなりました。私は学校で学級委員を務めていますが、今年の学年目標も私の案によって「ファーストペンギン」になりました。もし普段の活動で意識が低いと感じるならば、みんなでスカウツタウンを企画してみましよう。「ちかいとおきて」を意識することで、人から信頼され、必要とされる人に近づくことができるでしょう。

ボーイスカウト活動をするにあたって、皆さんには意味のない遊びで終わらせるのではなく、少しでも意味を持たせるような活動にしていって欲しいです。そのために、時間の使い方を工夫し、小さな目標を立てて実行していくことが大切です。私は四年間でたくさん失敗をしてきました。その失敗もまた反省し、次に活かすことで自分を高める意味のあるものに変えることができます。(PDCA サイクルは覚えているかな?)。

伝えたいことはまだ山ほどあります。そして私の意見が全てではないですが、とにかくまず自分で行動することが大切です。ボーイスカウト活動で得たものを確実に自分のものにして、これからも隊の中でお互いに切磋琢磨していきましょう。何より支えてくださっている保護者の方、団関係者の方、先輩方、仲間たちへの「感謝の心」を持ち(伝え)ましょう。

入隊おめでとう！

2023年4月23日
ビーバー隊の市川太一さんと小森薫くん



2023年4月29日
ボーイ隊の中島シャルロ出帆くん



2023年5月14日
ボーイ隊の佐々木永輝さんとビーバー隊の苅部義宗くん(左)



2023年11月18日
ボーイ隊の佐々木大和くん



収 益 報 告

2023年度 お祭り委員代表
RS 隊 永山 いずみ

23年度は、子どもまつり・さくらまつり・玉川学園夏祭りに出店しました。

団委員長はじめ各隊隊長・各隊リーダー・保護者の皆さまのお力で無事に終える事ができ感謝申し上げます。ありがとうございました。

- ★こどもまつり 2022/10/23 (日)
純利益 70,970 円
- ★さくらまつり 2023/4/1(土)~2(日)
純利益 542,547 円
- ★玉川夏まつり 2023/7/28(金)~29(土)
純利益 590,181 円
- ★こどもまつり 2023/10/15 (日)
純利益 27,659 円



赤い羽根共同募金 2023/10/1 (日)
募金額 18,480 円 (10/3 に振込完了)

今後とも、ボーイスカウト町田第 13 団にご支援をよろしくお願い致します。